PRESS RELEASE 2023.11.01

NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い
展示期間：2023 年 9 月 13 日（水）～ 2023 年 12 月 25 日（月）

ひきこもりにまつわる社会課題について考察し
アートが介入する可能性を追究するアーティスト・渡辺篤
国立新美術館のパブリックスペースを大胆に生かした新作を発表

国立新美術館では 2022 年より新規事業として美術館のパブリックスペースを使った 小企画シリーズ「NACT View」を開始しました。
第３回目は、自身も元当事者であるひきこもりにまつわる課題に向き合い、当事者との協働プロセスに重点を置き、社会に直接的な働きかけを行う活動家でもある渡辺篤（わたなべ・あつし、1978 生まれ）が 2021 年から継続的に行っているプロジェクト「私はフリーハグが嫌い」に関連するインスタレーションと映像作品を展示します。
孤立を感じる人の声に耳を傾け、自身の経験を背景に当事者とともに作り上げる渡辺（アイムヒア プロジェクト）の作品は、ここにいない誰かの存在に気づきを与え、遠くにいる誰かに対してどのような想像を働かせるかという問いへとつながります。同時に、それは、美術館を訪れることができる鑑賞者が、その場に来ることが困難な他者と向き合う一つの機会となるでしょう。

※2018 年より渡辺はひきこもりの当事者や孤立感を感じている人と協働して作品を制作する「アイムヒア プロジェクト」を展開。渡辺の呼びかけによって集まる人々と共に作り上げる作品に関しては、作家名は「渡辺篤（アイムヒア プロジェクト）」となります。

■作家プロフィール

渡辺 篤（わたなべ・あつし）

撮影：井上桂佑

1978 年、神奈川県生まれ。2009 年東京藝術大学大学院修了。
大学在学時より社会的事象やそれらを取り巻く状況を批評的に捉え、プロジェクト形式の作品として発表している。作品の発表以外ではメディア出演や執筆、シンポジウム登壇なども多い。近年の主な展覧会は「あ、共感とかじゃなくて。」（グループ展／東京都現代美術館、2023 年）、国際芸術祭「あいち 2022」（グループ展／愛知芸術文化センター）、「瀬戸内国際芸術祭 2022」（グループ展／香川）、「同じ月を見た日」（個展／ R16 studio、神奈川、2021 年）、“2020Asia Project–Looking for Another Family”（グループ展／国立現代美術館、韓国）など。
https://www.atsushi-watanabe.jp/

NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い

展示期間	2023 年 9 月 13 日（水）～ 12 月 25 日（月）
休館日	毎週火曜日
公開時間	美術館の開館時間に準ずる
展示会場	国立新美術館　1 F ロビーほか（東京都港区六本木 7－22－2）
観 覧 料	無料
主　催	国立新美術館
企　画	山田由佳子（国立新美術館 主任研究員）
ウェブページ	https://www.nact.jp/exhibition_special/2023/nactview-03/
一般のお問い合わせ	050-5541-8600（ハローダイヤル）

■最新の広報用画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

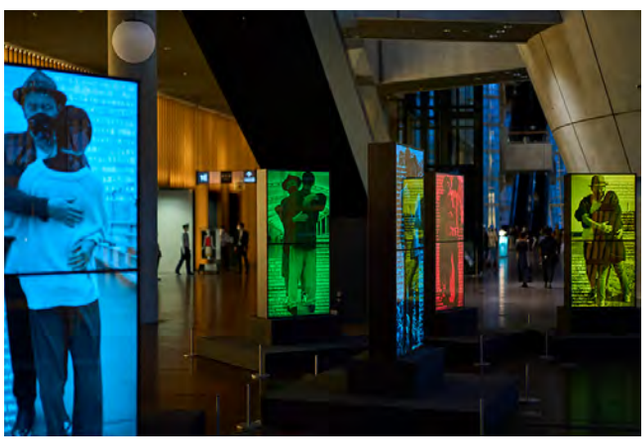
https://forms.office.com/r/UrKJC4wpQG

■展示のポイント

インスタレーションと映像の新作によって
美術館のパブリックスペースを生かした複合的な展示を展開

今回、渡辺は 2021 年から続けている「私はフリーハグが嫌い」のプロジェクトと関連するインスタレーションと映像作品を制作。国立新美術館のパブリックスペースで初公開します。

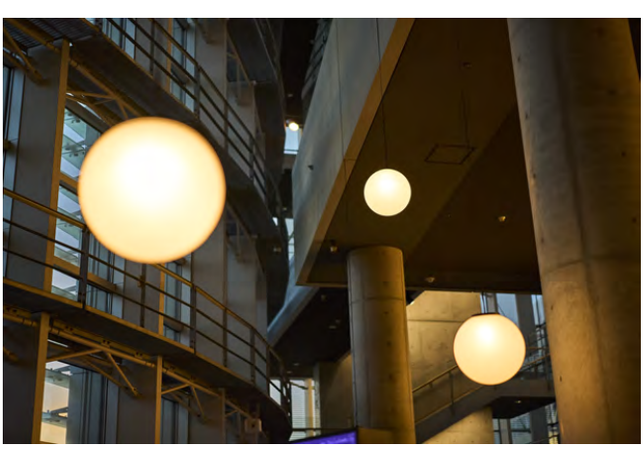
NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い 2023 年 国立新美術館 展示風景
渡辺篤《ここに居ない人のためのフリーハグ》2023 年
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑



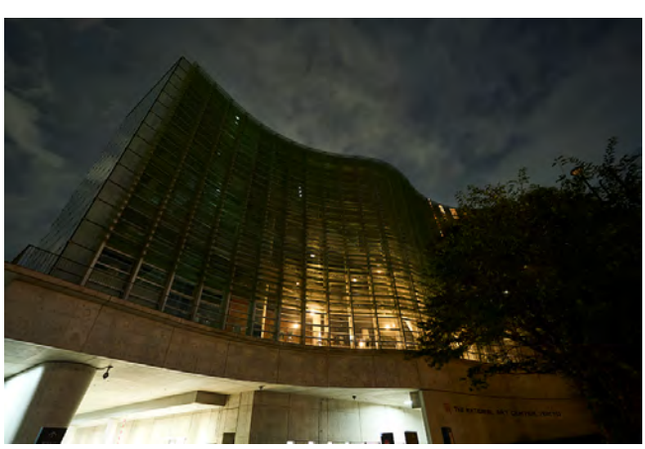
NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い 2023 年 国立新美術館 展示風景
渡辺篤《私はフリーハグが嫌い》2023 年
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑

ここにいない誰かの存在を示す光の作品も新作と共に展示

美術館に来ることが難しいひきこもり生活を送る人々が遠隔操作をすることで光る球体状のライトの作品も展示。美術館の空間だけでは完結しない、物理的な制約を超えた展示を実現します。



NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い 2023 年 国立新美術館 展示風景
渡辺篤《ここに居ない人の灯り》2021 年／2023 年
アイムヒア プロジェクト蔵
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑



NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い 2023 年 国立新美術館
外から見た展示風景
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑

■展示作品

《私はフリーハグが嫌い》

2023 年

バックライトフィルム、ライトボックス、ドア、木材ほか

2021 年、渡辺は新型コロナのパンデミックが収束した後の社会、すなわちスキンシップが再開する世界における孤立、孤独問題についても考察し、「私はフリーハグが嫌い」のプロジェクトを始めました。フリーハグとは、2000 年代後半以降渋谷などで流行し、街頭で「FREE HUG」と書かれたサインを掲げる者とその呼びかけに応じた者がハグをする行為です。渡辺はこのフリーハグを他者と容易につながることのできる象徴的なアクションと考えます。そして、目の前にいる人にのみ意識を向けがちな既存の社会包摂のあり方を批評的に捉え、インターネットで募集したひきこもりの人々と対話を重ね、直接対面し、ハグを行う活動を続けています。渡辺自身、過去に一定期間誰の目にも触れずに生きていた元ひきこもり当事者であり、自身の経験をもとにし、かつ当事者への尊重を踏まえた活動プロセスも含めて作品化することにより、目に見えるものにしか意識を向けづらい社会への批判と想像の及ばない向こう側にも他者が生きていることを訴えています。

《私はフリーハグが嫌い》は、この現在進行形のプロジェクトから副次的に生まれた造形作品です。それは、渡辺とひきこもり当事者たちとの活動を記録したアーカイヴとも言えます。今回渡辺は、プロジェクト参加者と対面を行ってきた活動のうち、８名とのエピソードとハグの様子の写真をライトボックスに収めました。そして、木製のドアの裏にそのライトボックスを組み合わせています。この８点の立体物は、国立新美術館１階の企画展示室前に置かれ、モニュメントのように立ち現れます。作品の構造とそれが置かれる場、そして作品の見え方それぞれが、遠くにいる誰かに対してどのように想像を働かせるかという問いへとつながっています。

NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い
2023 年 国立新美術館 展示風景
渡辺篤《私はフリーハグが嫌い》2023 年、表側
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑

NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い
2023 年 国立新美術館 展示風景
渡辺篤《私はフリーハグが嫌い》2023 年、裏側
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑

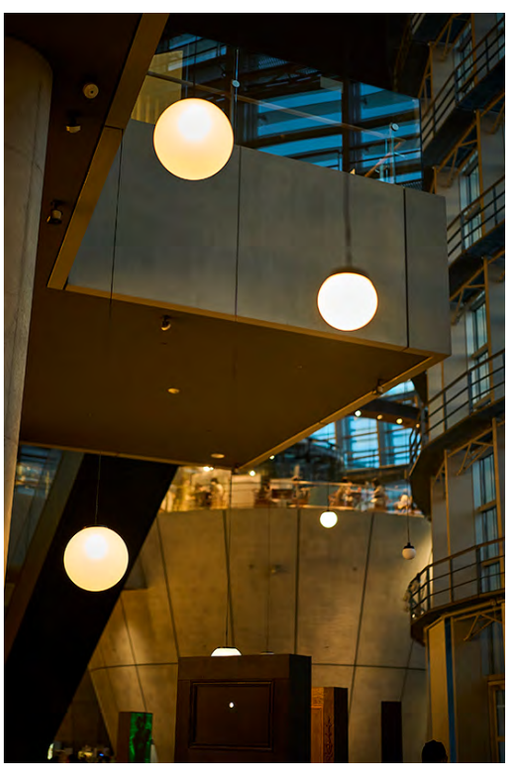
NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い
2023 年 国立新美術館 展示風景
渡辺篤《私はフリーハグが嫌い》2023 年、裏側
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑

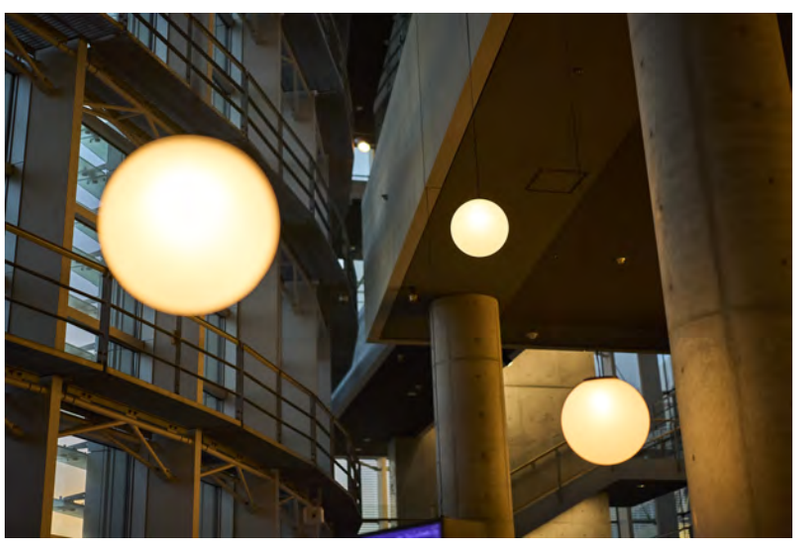
《ここに居ない人の灯り》

2021 年／ 2023 年

LED 電球、ライトカバー、スマートプラグ、Wi-Fi、スマートフォン、見守りカメラ
アイムヒア プロジェクト蔵

2020 年、渡辺は「同じ月を見た日」というプロジェクトの中で、コロナ禍において孤立感を抱えた人々に月の写真の撮影を呼びかけ、その写真を集めた作品を制作しました。《ここに居ない人の灯り》は当初この「同じ月を見た日」のプロジェクトの中で発表されましたが、国立新美術館の展示において、作家はこの球体状のライトの作品を新作と関連付け、ポスト・コロナにおける孤立や孤独という社会課題への応答として示しています。本企画のバージョンにおいてライトのスイッチは、渡辺の募集に対して応募をした有志のひきこもりの当事者たちが操作します。点滅する光は、美術館を訪れることができる人たちに、その場に来ることが困難な人を想像させるものとして機能します。





NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い 2023 年
国立新美術館 展示風景
渡辺篤《ここに居ない人の灯り》2021 年／ 2023 年
アイムヒア プロジェクト蔵
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑

《ここに居ない人のためのフリーハグ》

2023 年

ビデオプロジェクション、60 分

“FREE HUGS FOR ABSENTEES”（ここに居ない人のためのフリーハグ）というネオンサインを掲げた渡辺が渋谷駅前で 10 時間連続して立ち続ける様子を捉えたノーカット長回しによるタイムラプス撮影による映像です。１階のアトリウムで存在感を放つ高さ 16 メートルのコンクリートのコーン型の構造物に大きく投影される映像は、目の前にいない誰かの存在への意識を喚起する作家の姿を都市空間に掲げられる野外広告のように映し出します。

NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い 2023 年 国立新美術館 展示風景
渡辺篤《ここに居ない人のためのフリーハグ》2023 年
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑

《私はフリーハグが嫌い（ビル屋上でのアクション）》

2023 年

ビデオプロジェクション、60 分

乃木坂駅と美術館とを繋ぐ階段エリアに投影されたこの映像は、今回の展覧会の導入に位置付けられています。それは、厳しい暑さの中、横浜にあるビルの屋上で時に強風に煽られたりもしながら「私はフリーハグが嫌い」というボードを持つ作家を国立新美術館の通常の開館時間と同じ 10 時間連続して撮影したものです。「フリーハグ」とは、見知らぬ誰かに向けてボードを掲げ、希望する人とハグを行う友好や平和などを意味するアクションです。過去に足掛け 3 年の深刻なひきこもりの経験を持つ渡辺自身が現在も居住する横浜の住宅街をビル屋上から見下ろし、「フリーハグ」を批判する意味を込めてネオンライト製のプレートを掲げ続けています。渡辺は、多くの社会包摂をはじめとする他者に対しての善意とは、姿の見える者や想定内の他者にしか届けられていないという不可能性や矛盾について訴えています。ここで作家は誰に知られることもなくひとり孤独に、姿の見えない誰か、または、ここにいない誰かへ祈りを込めているのです。

NACT View 03 渡辺 篤（アイムヒア プロジェクト）私はフリーハグが嫌い 2023 年 国立新美術館 展示風景
渡辺篤《私はフリーハグが嫌い（ビル屋上でのアクション）》2023 年
©Atsushi Watanabe ©I'm here project
撮影：井上桂佑

■「NACT View」とは

「NACT View」は、若手から中堅の美術家、デザイナー、建築家、映像作家といった様々なジャンルの作家を、国立新美術館のパブリックスペースを使用して紹介する新たな小企画シリーズです。シリーズ名は、英語の館名「The National Art Center, Tokyo」の略称「NACT」と、「眺め、風景／見方、考え方」を意味する「View」に由来します。国立新美術館のパブリックスペースは、展覧会を鑑賞する人だけでなく、カフェやレストラン、ライブラリーといった施設の利用者から、ただ建物を通り抜ける人まで、様々な人が行き交う場所です。「NACT View」は、このような空間に作品を展示することで、美術館を訪れるあらゆる人が、気軽に現代の表現に親しめる機会となることを目指しています。今後、本シリーズと連動したワークショップやトークなども行っていく予定です。

■広報用画像

広報用画像をご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、お申し込みください。

＜画像ご使用に関する注意事項＞
・広報用画像の使用目的は、プロジェクトおよび展示のご紹介のみとさせていただきます。
展示期間終了後、上記の使用目的外では使用できませんのでご了承ください。
・広報用画像使用の際は、各画像のキャプションとクレジットを必ず掲載してください。
・広報用画像は全図でご使用ください。文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません。
・ウェブサイトに掲載する場合は、コピーガードを施してください。コピーガード対応が出来ない場合には、72dpi 以下の解像度にしてご掲載ください。
・基本情報と画像使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で国立新美術館 広報室までお送りください。
・掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録テープを１部お送りください。
・画像使用後は、データを破棄してください。
・掲載後、再放送や転載をされる場合は、広報室までご連絡ください。

最新の広報用画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。
https://forms.office.com/r/UrKJC4wpQG

プレスリリース　お問い合せ先
国立新美術館　広報室　〒106-8558　東京都港区六本木 7-22-2
TEL:　03-6812-9925（平日 10:00 ～ 17:00）　FAX:　03-3405-2531　Email:　pr@nact.jp